

令和元年度漁期ズワイガニ漁について

令和2年3月18日
鳥取県農林水産部水産振興局水産課

1 概要

【TAC(漁獲可能量)、漁獲状況及び自主規制】

- ① 令和元年度 A 海域ズワイガニ TAC は前年と同量の 3,200 トン(うち大臣管理分 2,348 トン)となり、本県の TAC も前年当初と同量の 870 トンとなった。
※平成 30 年度漁期の TAC は、漁期中に 55 トンの再配分を受け、925 トンとなった。
- ② 昨漁期は、同じ TAC 配分量で漁期当初からハイペースで漁獲が積み上がり 12 月末に TAC 消化率が 94.3%に達したことから、今漁期は漁期終了までズワイガニが安定供給できるよう、漁期当初から自主規制を強化した。

項目	自主規制の内容
松葉がに	甲幅規制の引き上げ (9.5 cm→10.5)、指 3 本以上ないものの水揚げ不可
親がに	1 航海当たりの漁獲上限枚数の削減 (△25~30%)
若松葉	漁期の短縮 (△12 日) ⇒ 開始日の変更 (1 月 20 日→2 月 1 日) 1 航海当たりの漁獲上限枚数を削減 (△50~61.5%)
公休日	回数の増加 (24 時間×3 回→4 回) ※11 月 18 日に 1 回追加し、5 回に変更

- ③ 今漁期 11 月の漁獲量は前年より 188 トン減少し、TAC 消化率は 44.9% (前年 66.6%) となり、12 月末の累計でも前年より 193 トン減少し、TAC 消化率は 72.1%であった。
- ④ 漁獲残枠が十分に残っており、1 月以降もズワイガニが安定供給できる見込みとなったため、県沖底協会は、更なる規制の強化は行わず、当初の自主規制を継続した。
- ⑤ 1 月 16 日、A 海域ズワイガニ TAC 協定委員会の結果、知事管理漁業に対する TAC の追加配分はあったが、大臣管理漁業に対する TAC の追加配分はなかった。
- ⑥ 2 月末時点での漁獲量が 774 トン、TAC 消化率が 89.0%となったため、県沖底協会は残りの漁獲量を各船に均等割り当てし、3 月 1 日以降、個別割当による管理に変更した (3.6 トン/隻)。

【県の対応状況】

- ① 11 月 7 日に初競り、15 日に解禁後 1 週間の水揚げ状況、12 月 6 日、1 月 7 日、2 月 12 日及び 3 月 6 日に 11 月末、12 月末、1 月末及び 2 月末の水揚げ状況を資料提供した。
- ② 解禁後、日々の漁獲量、漁獲金額及び TAC 消化率のモニタリングを開始し、関係漁協、支所及び水産庁境港漁業調整事務所に情報提供した。また、毎週金曜日に鳥取県観光連盟にも漁獲量及び TAC 消化率を情報提供した。

2 銘柄別漁獲量、漁獲金額、単価

【松葉がに】

- 11 月の漁獲量は、非常に漁獲の多かった前年より 30 トン減少したが、平年比 125%の 170 トンとなった。12 月以降も平年を上回る漁獲が継続し、2 月末累計は前年を 58 トン上回り、351 トン (前年比 120%、平年比 147%) となった。
- 単価は 11 月に 3,518 円/kg (平年比 89%)、12 月は 5,398 円/kg (平年比 96%)、1 月は 4,982 円/kg (平年比 93%) と平年をやや下回る程度であったが、2 月は 3,602 円/kg (平年比 80%) と過去 5 年で最低となり、3 月も同様に低い単価となっている。

- 漁獲金額は2月末累計で統計のある昭和39年以降で最高額だった1,364百万円を超え、1,458百万円（前年比137%）となり、3月累計でさらに増加する見込みである。

【親がに】

- 漁獲量は12月末累計で前年を186ト、下回り、370ト（前年比67%、前年比68%）と大幅に減少した。
- 単価は3,065円/kg（前年比155%、前年比177%）と大きく上昇し、平成7年度漁期以来、24年ぶりに3,000円/kgを超えた。
- 漁獲金額は12月末累計で前年の最高額を更新し、1,134百万円（前年比103%、前年比121%）となった。

【若松葉がに】

- 前年に比べ12日間漁期開始を先送り（縮減）し、2月1日～29日までの漁期となった（前年比71%）。1航海あたりの漁獲上限が前年以上に削減となったが、漁獲量は前年を6ト上回る53ト（前年比115%、前年比51%）となった。
- 単価は、前年より635円下回り、1,568円/kg（前年比71%、前年比150%）となった。
- 水揚金額は前年を19百万円下回り、83百万円（前年比82%、前年比76%）となった。

【五輝星】

- 高品質の松葉がにをトップブランド化する取組がH27年漁期から5年目を迎えた。
- 11月7日の賀露市場での初競りで、一枚500万円とこれまでの最高値を300万円上回る価格で落札され、昨年認定された競りで落札された最も高額なカニとしてギネス世界記録を更新。
- 昨漁期に続き今漁期も100枚を超えた。合計金額及び平均単価はこれまでの最高値を大幅に更新したが、2月26日以降、平均単価は値下がりしている。

表 H27-R1年度漁期の五輝星の水揚げ状況

	合計枚数	合計金額 (円)	平均単価 (円/枚)	最高値 (千円/枚)	出現率 (%)
H27	174	4,847,100	27,857	700,000	0.03
H28	130	4,650,000	35,769	1,300,000	0.03
H29	45	1,370,000	30,444	80,000	0.01
H30	101	5,192,800	51,414	2,000,000	0.02
R1	116	10,629,500	91,634	5,000,000	—

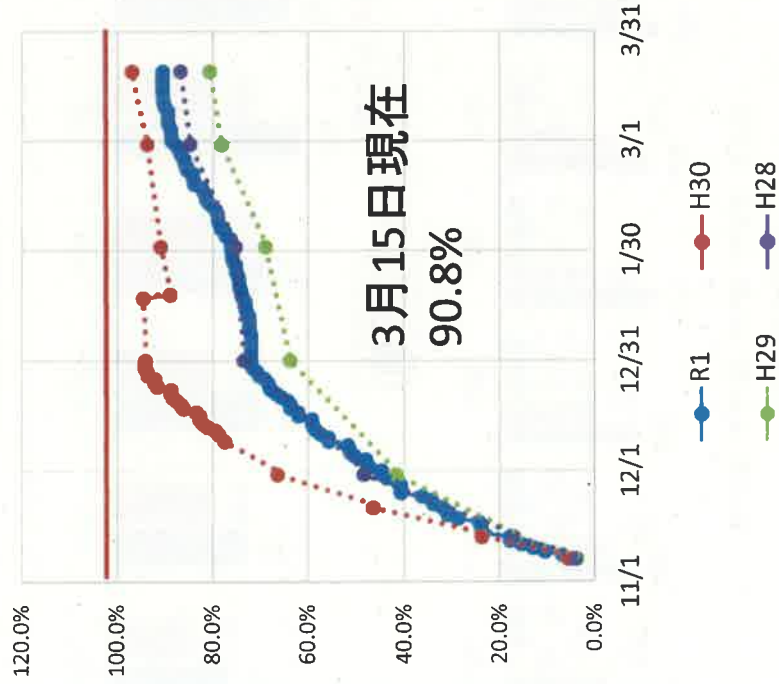
（令和2年3月10日（火）現在）

3 まとめ

- 令和元年度漁期は前年と同量のTACだったが、漁獲管理は順調に進捗し、観光業等に影響はなかった。
- 2月以降、国内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、旅館、外食向けの需要が減り、単価が下がったものの、2月末累計でズワイガニ漁全体では過去最高額だった前漁期を13%上回る2,674百万円となり3月累計ではさらに増額する見込み。
- 今漁期は親がに及び若松葉がにで一航海あたりの漁獲上限を削減し、若松葉がにでは漁期も縮減したが、全体の漁獲金額は増加したことを鑑み、今後もズワイガニ資源の維持、増加を図りつつ、現行の自主規制措置の継続や更なる強化についても検討が望まれる。

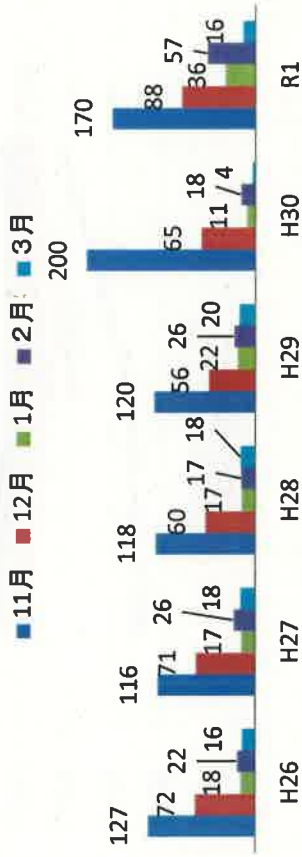
令和元年度ズワイガニ漁水揚げ状況 (R1年度は3月15日現在)

漁期別ズワイガニTAC消化率

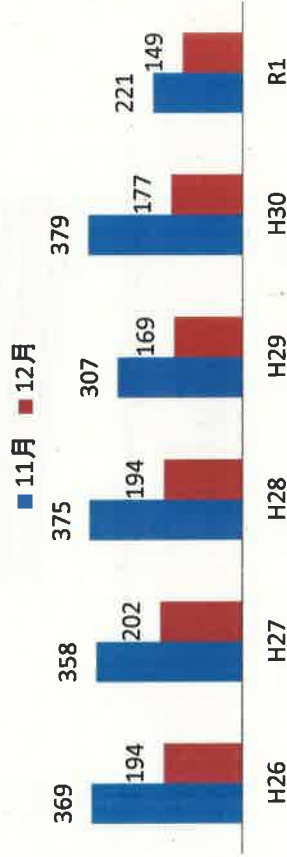


漁期別月別漁獲量 (トン)

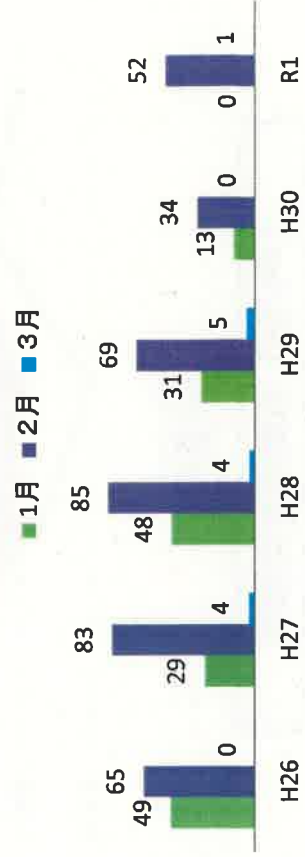
松葉がに



親がに



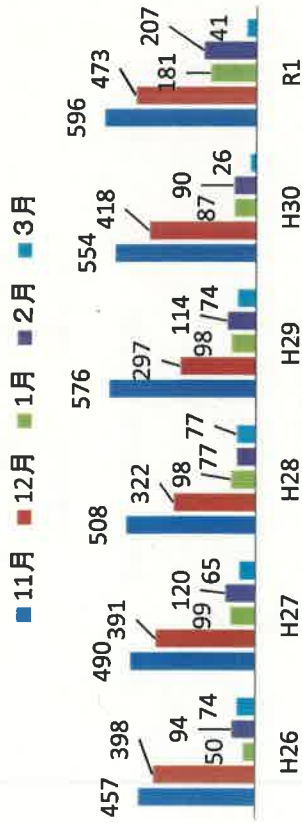
若松葉がに



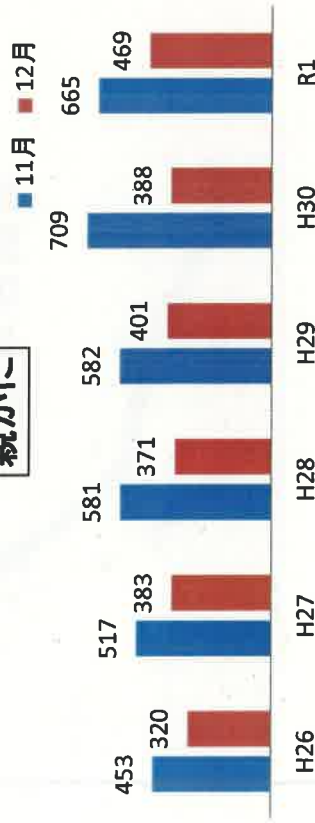
令和元年度漁期ズワイガニ漁水揚げ状況

漁期別月別漁獲金額 (百万円)

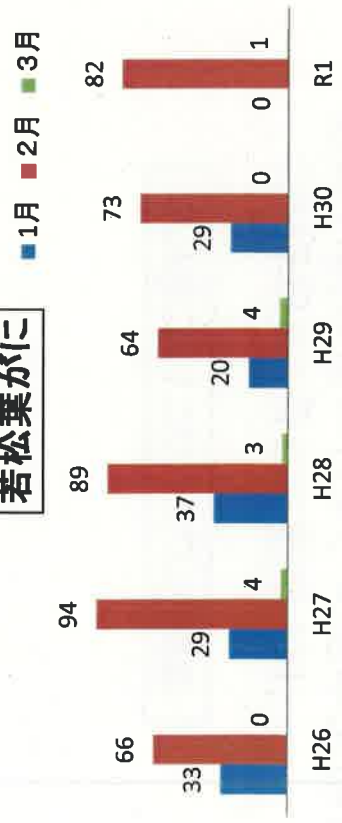
松葉がに



親がに

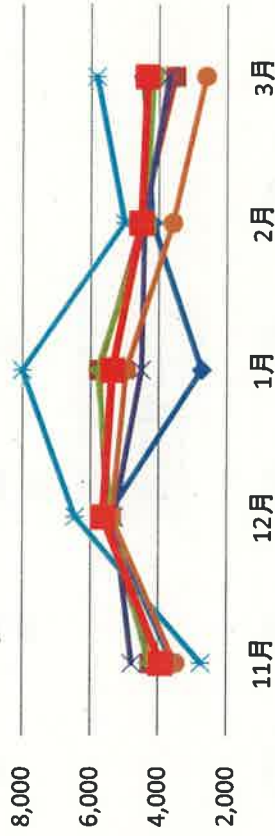


若松葉がに

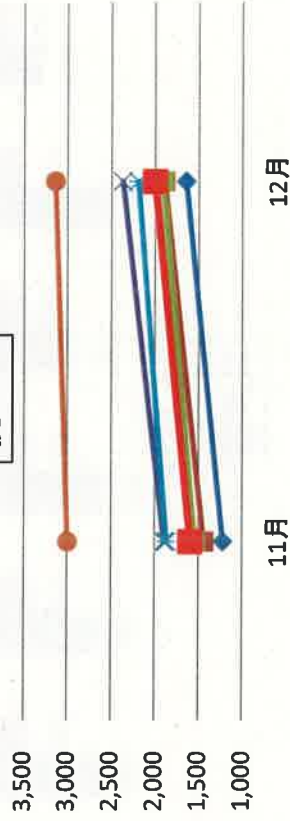


漁期別月別単価 (円/kg)

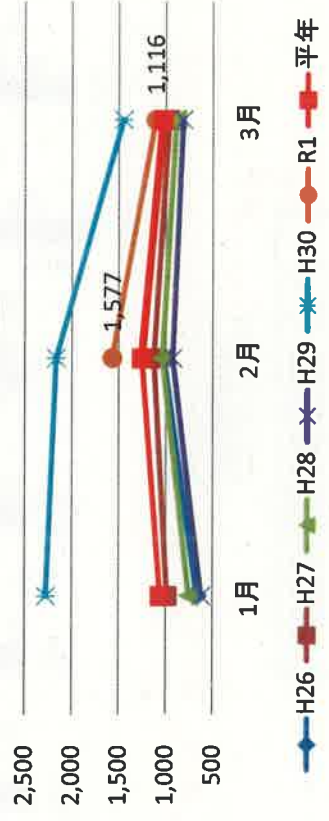
松葉がに



親がに

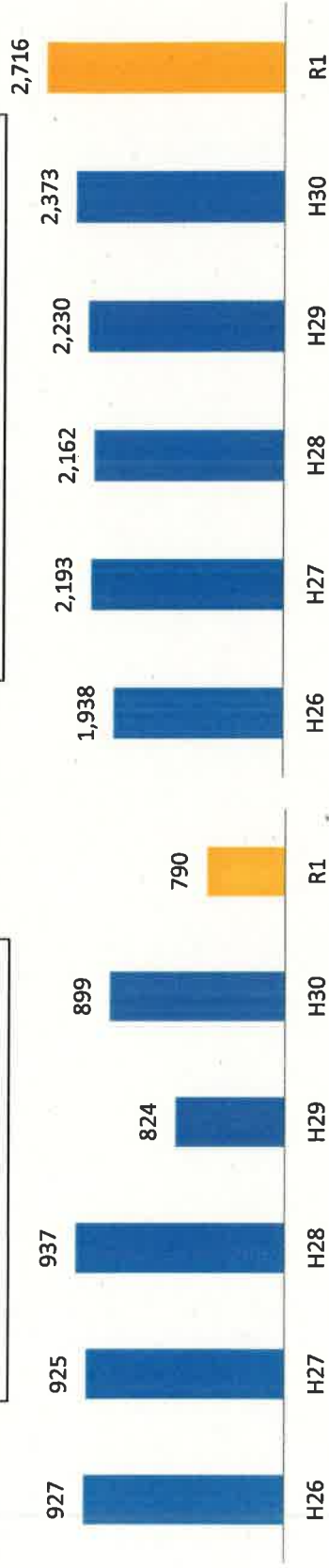


若松葉がに

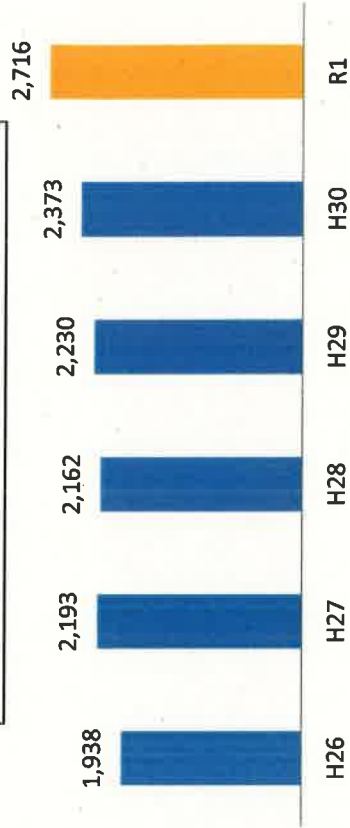


令和元年度漁期ズワイガニ漁水揚げ状況(まとめ)

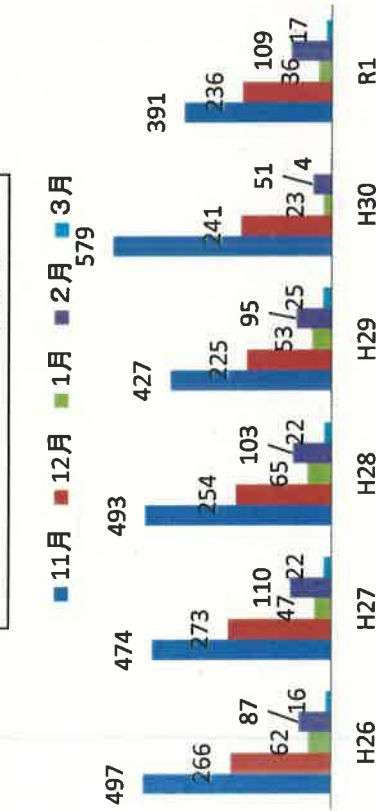
漁期別ズワイガニ漁獲量(ト)



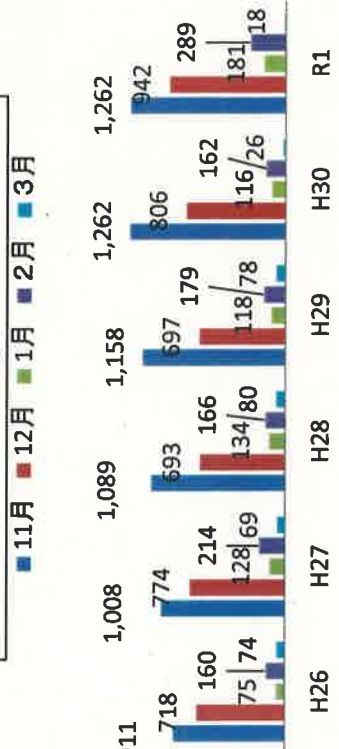
漁期別ズワイガニ漁獲金額(百万円)



月別ズワイガニ漁獲量(ト)



月別ズワイガニ漁獲金額(百万円)



月別ズワイガニ単価(円/kg)

